

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる やや良くなる	○	○
		○	○
		商店街（代表者）	・客の様子から2月の非常に厳しい月を経て、3月になると人出が増える。これから景気は良くなる。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・大量に在庫が出ていく時期となり、販売量は伸びる。
		スーパー（総務担当）	・前年を大きく下回っていた衣料品は回復傾向となっており、来客数も前年を上回っている。今後も競合店との価格競争は続くが、売上自体は若干上がる。
		コンビニ（店長）	・客の様子をみると、新年度を迎えるにあたって、今後は多少良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・現在の寒さの反動により、今後、暖かくなると来客数が少し増える。
		家電量販店（総務担当）	・テレビ以外の商品に少しずつ動きが出たので今後は良くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・客のエコ志向やエコカー減税、エコカー補助金の影響で良い状況が当分続く。
		自動車備品販売店（従業員）	・前年の東日本大震災とタイの洪水の悪影響がなくなっている。また、新車の供給が始まり、関連部品・用品の販売が増えていることから今後はやや良くなる。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・東日本大震災以降の客の心理、市場の心理は大きく変化している。株価の上昇もあり、景況感は回復基調にある。その影響が個人消費にも大きく寄与する。売上は前年比で伸び、購買意欲も促進する。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・3、4月にかけては、例年人の動きが出る。今年も客足の伸びに期待ができる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（総支配人）	・前年は東日本大震災後、需要が大幅に低下した。天候要因により、現在の消費は低迷しているが、円高の一服や株価の上昇等により、景気は回復しつつある。今後、卒入学、進学、新生活、ゴールデンウィーク行楽等の客の消費意欲も向上し、消費は多少良くなる。
		高級レストラン（専務）	・当地は九州新幹線の全線開業から1周年を迎えるということで、いろんなイベントが出ており、5月までは人の動きがあるため、盛り上がっていく。
		一般レストラン（経営者）	・3月はレストランの売上が安定する時期である。また、4月は前年、東日本大震災後で客の動きが非常に悪かったが、それも緩和されている。客の動きが自粛ムードからお祝いのできるムードに向かっているため、売上は伸びる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・宿泊、宴会共に予約が順調に入っている。
		都市型ホテル（総支配人）	・前年3月に発生した東日本大震災による自粛ムードも緩和の方向に向かっており、前年に比べ来客数の動きが良くなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・5月は大型団体の予約が好調で、前年比120%の状況である。前年は東日本大震災の影響が色濃く出た月であったが、今年は順調に予約を伸ばしている。
		旅行代理店（従業員）	・東日本大震災の影響の反動で前年実績は大きく上回るが、近場の商品ばかりが売れている。
		旅行代理店（企画）	・円高の影響とともに4月以降の燃油サーチャージの値下げもあり、客の海外旅行に対するニーズが高まる可能性がある。
タクシー運転手	・やはり2月が一番悪いので、今から3か月後は暖かくなり、その分動きも良くなる。ゴールデンウィークもあり、客の様子をみても景気は今よりは良くなる。		
通信会社（総務局）	・入学、就職時期のキャンペーン期間であるため、需要は増える。ただ、廉価プランに流れる傾向は引き続きあり、大幅な売上の増加にはつながらない。		
通信会社（業務担当）	・3月は最需要期となり、学割施策も認知され、学生とその家族を中心に販売台数が伸びる。スマートフォンを中心に販売は更に伸びる。		
テーマパーク（職員）	・春休みやゴールデンウィークに向けての施策を発信し始めている。前年は3月の東日本大震災の影響で春先から夏休み前まで大打撃を受けたが、旅行マインドは回復傾向にあり、やや良くなる。		
ゴルフ場（従業員）	・九州新幹線全線開業の影響もあり、3月の予約は前年比10%以上伸びている。また、東日本大震災の影響による反動で、4月も前年比で非常に良く伸びている。また海外船の新規就航もあり、5月までは堅調に入場者数の確保ができる。非常に良い方向に動いている。		

	設計事務所（代表）	・消費税増税前の駆け込み需要があるため、やや良くなる。
	住宅販売会社（従業員）	・住宅所得にかかわる優遇政策の継続と消費税増税が今年一杯は住宅取得意欲を下支えしていく。
	住宅販売会社（代表）	・例年4、5月は良くなるが、販売状況等をみて中長期では良くなる様子ではない。
変わらない	商店街（代表者）	・例年3、4月は人が動き、お金が動く時であるが、明るい材料がなく、期待が持てないため、悪い状況が続く。
	商店街（代表者）	・贈答品等の動きが悪くなっており、客の買い控えが目立っている。今後もこの状況は変わらない。
	商店街（代表者）	・法人の客が多いため、周辺地域が活発にならないと景気は良くならない。今後も周辺企業の業績改善が見込まれないため、この状況が続く。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・新入学シーズンになれば食金をかけなくなり、鮮魚はなかなか売れない。何とか工夫で売上を上げたいがなかなか思うようにいかない。
	百貨店（売場主任）	・先月と同じように、景気を浮揚させるような話題がみられない。クールビズ需要は前年ほどではなく、実際に動き出すのも5月以降と考えられる。
	百貨店（営業担当）	・明るい話題がなく、今の状況のまま推移すれば、悪い状況が続く。
	百貨店（営業担当）	・来客数が増えない。この傾向はまだ続く。
	百貨店（営業政策担当）	・欧州の信用不安は本質的な解消にいたらず、引き続き原材料価格高騰の影響が長引く。国内では消費税増税議論が続いており、消費マインドは更に停滞していく。
	百貨店（売場担当）	・1、2月の売上は前年とほぼ変わらなかった。今後もこの流れは変わらない。ただ、3月29日から週1便、乗船客数が1,000名程度の上海航路が開設されるため、中国人観光客の動向を注視したい。
	百貨店（業務担当）	・ここ数年、春物商戦の時期が短くなっている。必要のない物は価格が安くても、購買につながらない傾向が続いている。機を逃すと売上の山は消失しかねない。プラスに働く要素が見当たらない。
	スーパー（店長）	・現状は寒波の後押しで比較的好調に推移しているが、本格的な景気の回復とは判断しない。ただ東日本大震災から1年が経過し、自粛ムードの反動で活発な消費活動が期待でき、3～4か月後は好調に推移する。ただ、増税や年金問題等があり、心理的な不安要素が節約志向あるいは生活防衛という形で表れる可能性を危惧している。
	スーパー（店長）	・店舗周辺にコンビニエンスストアやディスカウントストア、食品スーパー等が増え、来客数が分散している。また60歳以上の客は近くて便利な店に行くようになり、当店のような中型の店舗の来客数は、より厳しい状況が続く。
	スーパー（経理担当）	・東日本大震災から1年が経ち、自粛ムードによる買い控えが一巡し、安定してくる。
	スーパー（業務担当）	・これから春物の収穫期を迎え、生鮮関係が冬商材から変化を迎える時期になるが、放射能汚染や輸入食材に対する消費者の反応は相変わらずシビアである。食品のみならず、生活用品でもとりわけ中国製は敬遠される傾向が強い。コストダウンを図るため生産拠点を海外に移す企業が増える状況が続く限り、個人消費は安定しない。
	スーパー（売場担当）	・景気が良くなる要素がない。単価は毎月下がっているが、来客数が微増しており、総じて変わらない。
	コンビニ（エリア担当・店長）	・本部からの施策にもよるが、惣菜等の商品開発がこの先必要になる。来客数を伸ばすにはキャンペーン並びにセールをやる必要がある。
	衣料品専門店（店長）	・商店街の工事が続き、来街者が少ない状況が続く。
	衣料品専門店（店員）	・百貨店フロアを回遊している客が減っている現状をみると、景気は良くならない。しばらくはこの状態が続く。
	衣料品専門店（取締役）	・客の動きをみる限り、景気が良くなる様子はない。
	家電量販店（店員）	・前年、テレビが売れ過ぎたため、売上は前年比6割程度で推移している。この厳しい状況が今後も続く。
	乗用車販売店（総務担当）	・新型車発売による良い効果が当分続く。4月には小型スポーツ車が発売される。来客数の増加が予想され、新車販売は3か月先も今月同様に好調を維持する。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・客の様子をみると、デフレ脱却のめどが立たない。今後も厳しい状況が続く。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格が安定しており、燃料油の需要の増減はさほどない。	
高級レストラン（経営者）	・3月の予約状況を見ると、歓送迎会が増えている。その人数も多くなっているが、中旬以降の予約状況の動きがまだみえない。	

	高級レストラン（従業員）	・1、2月はセールがあったので客の動きがあったが、来客数はだんだん少なくなる。
	一般レストラン（スタッフ）	・最近天候が悪く、客の様子もあまり良い雰囲気ではない。来店しても早々と食事を済まして帰るような状況である。今後もこの様子は変わらない。
	スナック（経営者）	・毎月ここが底だと思って頑張っているが、売上が戻る気配を感じない。
	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・当地は九州新幹線全線開業により、この1年はとても良かったが、これからはそうはいかない。
	観光ホテル（総務担当）	・まず国内需要については、九州新幹線の全線開業による好景気がいつまで続くかが鍵となる。ただ今年は東北に目が行きそうである。海外の客は円安が進めば、集客は期待できるが、先行きは不透明である。
	都市型ホテル（副支配人）	・市内でのイベントが少なく、団体予約も4、5月まで少ない。インターネット販売に頼らざるを得ないということが苦しいところである。
	タクシー運転手	・今月に入り、当地でIT関係の大きな会社が撤退し、同業者2社が他社の傘下に入るといった話があり、明るい材料がない。また客は大変財布のひもが固くこの先も厳しい。
	通信会社（企画担当）	・転居シーズンの季節要因により、販売の増加は見込めるものの、ペースは低調なままである。
	ゴルフ場（支配人）	・3、4月の週末を中心にコンペの予約が活発に入っており、冬季シーズンの終了と春季ゴルフシーズン到来の期待が反映されている。ゴルフの冬季休みに入っていたシニア層が、春にどれだけ復帰してくるかがキーポイントとなるが、毎年シニアのゴルフ引退は増えている。
	理容室（経営者）	・2月は日数が少なく落ち込むので、今月は企画を1月の終わりぐらいから開始し、前年比で5%増と売上が上がった。ただ、3～4月になると進学や就職等で客が減り、あまり期待できないため、景気は変わらない。
	設計事務所（所長）	・現況がずっと良くない状態で変わらないため、2、3か月先も変わらない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・2～3か月先は卒業や入学シーズンでお金がかかる時期である。消費者が食費にけるお金が減り、厳しい状況となる。
	商店街（代表者）	・取り巻く社会環境の不安からか、特に高齢者の購買欲がない。今後もこの状況が続く。
	百貨店（営業企画担当）	・現状の推移に大きな変化はなく、売上の低下傾向が続く。国際情勢や政治、株価等も好転の兆しがみえず、景況感の上昇は感じられない。
	スーパー（店長）	・3月にまた競合店の出店があり、競争が更に激化し、ますます厳しくなる。
	スーパー（店長）	・経済が活性化しないなか、年金や雇用の問題が払しょくされず、厳しい状況となっている。競合店の出店も続いており、ますます悪くなる。
	スーパー（総務担当）	・為替は若干改善の兆しはあるが、原燃料価格は依然高止まりであり、所得環境や雇用環境共に改善の兆しが無い。当分の間、来客数の維持には価格操作がポイントとなる。荒利益の確保が相当難しく、売上、収益共に厳しい状況が続く。
	コンビニ（販売促進担当）	・消費者の様子を見ると、このところスマートフォンやインターネットが急速に普及し、その分、小遣いが減っている。消費は減少し、売上は今後も厳しい状況が続く。
	衣料品専門店（チーフ）	・来客数が減少し、客の購買意欲は低下している。また新しい物を買いたすという動きより、小物を買いたすといった動きが強まっていることからやや悪くなる。
	乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金は続くが、現行の減税が終わるので、現状のようにはいかない。
	住関連専門店（経営者）	・地元の中堅資材屋の経営不振の話や同業者の店閉まりセール等があり、先行きは厳しい。
	高級レストラン（支配人）	・医療関係の接待等が減少傾向にある。
	タクシー運転手	・朝、夜かかわらずタクシー利用がだんだん減っている。この状況は今後も続く。
	タクシー運転手	・客の給料は前年と比べると下がっており、その影響が先々出てくる。
	美容室（経営者）	・消費者は年金問題や震災等、いろいろな不安を抱えており、厳しい状況が続く。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・4月の介護保険の改正による介護報酬見直しの影響により、今後、売上が減少する。
	音楽教室（管理担当）	・今後見込まれる生徒人数をみる限り景気は悪くなる。

	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・東日本大震災の影響により、たばこの売上が大きく変化している。全体の売上が前年と比較して大幅に減少しており、現状より厳しい状況となる。
		衣料品専門店（店長）	・東日本大震災以来、世の中が全体的に様子見の感がある。周りのムードが買物に行きにくくしている。
企業動向関連	良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・取引先企業や自治体からの駆け込み受注が見込まれる。
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・2月は畜産物の販売は厳しいが、3か月先になればある程度需要があり、やや良くなる。
		食料品製造業（経営者）	・当地発の塩麴ブームに対応するため良くなる。発売が来月になる予定であり、売上の増加が期待できる。
		家具製造業（従業員）	・今後、本格的な復興需要が見込まれ、被災地に限らず、需要の広がりが期待できる。ただし、家具業界においては、大手の販売会社のスケールメリットを生かした低価格競争により、中小の販売会社は、より付加価値の高いニッチな戦略をとるしか生き残る方法はなくなってきている。メーカーも同じで市場規模がますます縮小するなか、大手による価格破壊は業界全体を弱体化させている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・3～4月は新入学や入社等があり、食器等の需要が出てくるため、良くなる。欧州の信用不安も薄れており、今後はいくらか良くなる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・来期4月以降の増産が見込める。
		輸送業（従業員）	・1、2月はかなり荷動きが悪かったが、これからは上昇基調になっていく。
		金融業（営業担当）	・大手銀行が建設関係の融資に積極的になっているため、その影響で建設業の受注件数が増え、資金が動き出している。当面、銀行の融資姿勢が消極的になる要素がないため、この受注状況は続く。
		金融業（調査担当）	・取引先の海外ビジネス検討の話聞くことも多い。マインド的にも前向きな検討を行う取引先が多い。
		新聞社（広告）（担当者）	・九州新幹線の全線開業から1年が経過し、鹿児島、熊本を中心に県外広報が増える。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・1、2月で少しずつ景気は良くなっており、3月以降も良くなる。また東日本大震災があった前年と比べると今年は良くなる。
		変わらない	農林水産業（経営者）
食料品製造業（経営者）	・季節性のある商品や新商品の生産開始予定があり、今のところ安定した需要が見込める。		
食料品製造業（経営者）	・景気は悪化傾向であったが、業績にやや改善がみられる。将来の予測が非常に困難な状況であることに変わりはないが、売上に好影響を及ぼす要素がないことから、今後2、3か月先の景気は特段の変化はない。		
金属製品製造業（企画担当）	・円安や株高で景気は上昇していくが、当社が属する業界は公共投資に依存するところが大きく、景気上昇の効果はすぐには出ない。		
一般機械器具製造業（経営者）	・最近、円安傾向となり、景気は回復状況となる期待感はあるが、具体的な動きはない。自動車関連は東日本大震災やタイの洪水から少しは持ち直すが、メーカーが低価格車にシフトしているため、部品価格の低下が厳しい。		
精密機械器具製造業（従業員）	・まだ先行きに見通しはつかない状況で、今のところ、受注生産計画では来期からの計画はあまり変わらない。		
輸送業（総務）	・特に明るい材料もなく、景気は変わらない。		
金融業（営業職渉外係）	・日銀のインフレ目標設定で大きく市場が動き始めたが、消費低迷は続いており、企業の収益回復も時間がかかる。		
金融業（得意先担当）	・金融円滑化法の再延長が決まり、企業は条件変更により資金繰りが安定している。今後も現在の状況が続く。		
不動産業（従業員）	・宿泊部門の売上が横ばいで推移する。		
広告代理店（従業員）	・1月の受注枚数は前年比0.5%増と何とか前年をクリアしたが、主要な新聞折込業種である流通やパチンコ等の折り込み枚数は前年を下回っている。加えて通信販売チラシも新規参入がない。まだまだ不透明な状態が続く。		
経営コンサルタント（社員）	・小売店が価格を安くしても消費者の反応が鈍い。厳しい状況が続く。		
経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先から聞いた業況見通しから判断すると、今後3か月は大きく上向き可能性は低く、当面景気は変わらない。		

	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	・海外経済の減速や欧州の信用不安、円高、政局の不安定等不安材料が多々あるなかで、県内における持ち直しの動きも鈍化している。設備環境等においても当面慎重な動きが続く。	
やや悪くなる	繊維工業（営業担当）	・これから閑散期に入っていくのに、現在の受注量では景気は悪くなる。	
	鉄鋼業（経営者）	・需要面では、新設の住宅着工戸数が前年を連続して上回っており、特に分譲マンションの着工が増えている。しかし、全体では企業の設備投資に伴う建築物の着工が非常に少なく、また公共土木は極めて少ない。今後、関東地区以北の震災復興需要が本格化すれば、西日本地区、九州地区の需要の落ち込みが懸念される。	
	建設業（従業員）	・仕事量の少なさに伴い、競争が激化し、収益力が低下し、業界では景気は悪くなる。	
	通信業（職員）	・2012年度の取引件数に伸びがなく、今年度よりもやや厳しい状況となる。今後も大きくは変わらない。	
	金融業（営業）	・大手製造業の海外への生産移転の影響が来年度から出てくる。対応できる中小企業とできない中小企業に2極化する。	
	広告代理店（従業員）	・売上は前年より下がる見込みであり、厳しい状況が続く。	
悪くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合い状況をみると、今後、ますます受注が困難になる。	
	建設業（社員）	・現在施工中の手持ち案件は、3月でほぼ完成する。3～4件の繰越工事はあるが、今年は例年に比べ、官公庁からの繰越工事が発注されていない。今後も数件は発注されるが、補正予算は我々の地区までは回ってこない。今年は非常に厳しい。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・前年と比較して、委託業務の発注量や金額が少ないため、建設業界や調査計画コンサルタントの業績は悪化する。補助金が出る国や県の事業が減るため、市町村から委託に出す業務は、今後減るという話も聞かれる。	
雇用 関連	良くなる	—	
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・公務員の人員削減の話をよく耳にするようになった。この人員削減の結果、民間への業務委託が増えるため、景気は良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・円安傾向もあり、低調だった工場等の生産部門の求人が伸びる。震災の底打ち感からじわじわと景気回復基調になってくる。
		職業安定所（所長）	・例年に比べ求職者数は減少し、求人数は増加傾向にある。景気は上向きに推移している。
		職業安定所（職員）	・平成23年9月以降、道路貨物運送業の新規求人数においては5か月連続で大幅に前年比で増加している。とくにトラック乗務員の増加が大きく、荷動きが活発化している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・各企業の2013年卒対象の求人状況が良く、今後、景気は良くなる。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・介護関係の求人難が続いており、看護師や作業療法士、介護福祉士、社会福祉主事等の有資格者の採用や24時間体制で介護をするヘルパー等の求人が厳しくなっている。また、労働集約型の求人もますます採用が難しくなっている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・好調だった前年と比べると求人数は減少しており、景気回復の動きは弱い。ただし、看護系ガイダンスへ参加する病院は増加している。	
	職業安定所（職員）	・求人数の動きや求職者数が改善傾向を示していることから、企業の採用意欲は堅調な動きを示している。現在の状況がしばらくは続く。	
	職業安定所（職員）	・新規求人数は18か月連続で前年を上回って推移しており、現在のところ改善傾向である。ただ、円高等の不安要素や再編する企業等も目につくようになってきている。このため、先行き不透明な状況である。	
	職業安定所（職員）	・求職者数がこのところ横ばいで推移しており、引き続き高止まりとなる。	
	学校〔大学〕（就職支援業務）	・厳選採用という厳しい就職環境がしばらく継続する。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・3月で契約終了となる案件が多くあり、今後については、もう少し経ってから様子を見るという動きがほとんどである。厳しい状況が続く。	
	人材派遣会社（社員）	・半導体工場で閉鎖が決まっているところもあり、採用を手控える企業も多いことからやや悪くなる。	
	人材派遣会社（社員）	・ますます進む産業の空洞化は、報道されているより早いピッチで進んでいる。各企業は海外移転を検討あるいは実施している。このままだと雇用がなくなっていく。	

	民間職業紹介機関（社員）	・毎年3月で契約終了者が増加する傾向にあるなかで、今年 は電力関連企業からの求人までも減っている。厳しい状況が 続く。
悪くなる	○	○